

中山商運 中山豊社長が指摘 「子会社」扱いが問題

【三重】「荷主から子会社のように扱われている運送会社が増えてくる。またまた対等な関係とは言えない」と

話すのは、中山商運(松阪市)の中山豊社長。一荷物を積み込みに行っても何時間も待たされる。朝一番で行っても昼までかかることは珍しくない。これはトラック運送業界が低く見られているというところも大きい」と指摘する。

「これでは配車も難しく、次の仕事に支障が出てしまい、ドライバーの労働時間の問題にも関わってくる。きちんと指定された時間に積み込みができれば、効率的な仕事で上がらない。荷主の間には、クッションがある物流子会社の存在が業界に与えている影響が大きい」と



中山商運 中山豊社長

「この業界は考えていかなくてはならない」と話す。

(小西克弥)